2Dp-12

廃棄布団の種類と中ワタの数量的実態

芳住邦雄　（共立女大）

１．現代社会における多様な廃棄物の処理は、重要な社会経済上の問題である。廃棄される布団について見るに、東京都２３区内の粗大ゴミとして処理される量は年間３０万枚にも及んでいる。しかし、その種類および中ワタの構成についての詳細な情報は、皆無に近い。本研究では、こうした廃棄布団の実態を実査により把握することを目的として実施した。
２．東京都清掃局によって平成７年１０月に粗大ゴミとして収集された廃棄布団を調査対象とした。中央防波堤処理場において、５５０枚を検体として抽出した。その廃棄布団の外観と布団側の切り開きにより種類および中ワタを識別した。
３．廃棄布団の種類では、敷布団が、５４％強で最も多く、次いで掛け布団が４０％となっていた。コタツ布団は、６％程度であった。布団の種類ごとにおける中ワタの比率でみると、掛け布団では、綿が４５％で、ポリエステルが４０．５％であり、綿とポリエステルの混紡の８．６％を含めると、この２種類が、掛け布団を合半ばしている特徴が読み取れた。一方、敷布団では、綿が７割で極めて高い比率であり、ポリエステルは、７．４％と掛け布団に比較して低い比率となっている。コタツ布団では、ポリエステルが８４％と廉価なためか圧倒的な占有率となっており、残りは、綿となっていた。以上により、今後の廃棄物処理の施策に資する有為な結果が得られたと言える。